

哲学としての『パータンジヤラ・ ヨガシヤーストラ』

そもそも哲学書としての成立

ヨーガと哲学

『パートンジャラ・ヨーガ・シャー
ストラ』

起源・意義

著者・時代

- シャーストラとは？
- 『ヨーガスートラ』, 『ヨーガバーシュヤ』
- 類似のシャーストラ
 - ミーマーンサー, ニヤーヤ, ヴァイシェーシカ, ヴェーダーンタ
- 著者問題
- 成立年代

そもそも何？

当時存在していた色々なヨーガを一つに統合しようという試み

- ・核となるヨーガ
- ・バラモン教的ヨーガ
- ・仏教的ヨーガ
- ・ジャイナ教的ヨーガ

でも何をもつてヨーガとしてそれを集めたのか？

ヨーガ（修行法）と呼ばれていたものの二大潮流

- バラモン教的（ヒラニヤガルバの）ヨーガ
- 6支からなる
- おそらく samādhi で終わる
- 調息方
- 坐法
- dhāraṇā, pratyāhāra

仏教的ヨーガ

例えば Yogācārabhūmi

- dharmamegha
- sabīja, nirbīja
- bhūmi
- brahmavihāra
- vitarka/savitarka
-

adhyātma 哲学

Adhyātma 哲学とは

- ātman を知るための哲学
- 対象, 感覚器官, マナス, アートマンの結合から生まれる認識を前提
- ヴァイシェーシカ的, あるいは後期ウパニシャッド, マハーバーラタ的
- サーンキヤ的にも見える

サーンキヤ

サンキヤ的宇宙展開論

これが核に

- puruṣa, prakṛti, sattva, tanmātra, rajas, tamas, asmitā などの術語
- 主にバーシュヤで多く言及される
- スートラも前提にしていると言ってよい
-

文法家

文法哲学が与えた影響は見過ごされがち しかし...

- そもそも Pātañjala とはどこから來るのか？
- 文法家パタンジャリ
 - パニニのストラ, Kātyāyana の Vārttika, パタンジャリの Mahābhāṣya
- まずは Mahābhāṣya と Pātañjalayogaśāstra の冒頭
 - Mahābhāṣya: **atha śabdānuśāsanam** . **atha iti ayam śabdaḥ adhikārārthaḥ** prayujyate .
śabdānuśāsanam **śāstram adhikṛtam veditavyam**
 - Pātañjalayogaśāstra: **atha yogānuśāsanam** || **athety ayam adhikārārthaḥ.** **yogānuśāsanam** **śāstram adhikṛtam veditavyam**
- śabda (語) と yoga を置き換えただけ

さらに 見過ごされがちなところに文法哲学の影響が

- スートラおよびバーシュヤ 3.17
- 言語観
 - パタンジャリ以来の伝統 gaur ity atra kah śabdah?
 - 言語, 意味, 表示対象の区別
- スポーダ説
 - 意味を伝えるのは何か?
 - 部分対全体

さらに puruṣa の同義語としての citiśakti

- puruṣa を draṣṭr, citiśakti と言い換える
- citiśakti は重要な場面で現れる
- puruṣa が男性名詞なのに対して citiśakti は女性名詞
- 複注 Vivaraṇa によると, puruṣa が cit- で置き換えられるとのこと。これは puruṣa は動詞語根 cit (現在形3人称単数 cetati) であるということ。動詞語根は、名詞などと違い、場所や時間に限定されない。そのものは不变でその現れ方だけが異なるという思想が背景にある模様

仏教

仏教の影響はあらゆる場面で見られる

しかし、特に哲学的テーマに絞るなら

- 認識論
 - Dignāga
- 全知者論
- Dharmakīrti もしくはその直前？
- 展開論もしくは属性と本体についての議論
- Vasubandhu

認識論

1.6-7

- pramāṇa
- pratyakṣa
- anumāna
- sāmānya
- viśeṣa
- pramāṇaphala
- ...

全知者の証明

1.24-27

- スートラ 1.25 とバーシュヤ（全知者たる主宰神の存在証明）
 - 二つの議論が共存
 - 一つは永久に大きくなる知識
 - もう一つは最大の知識
- ダルマキールティの議論
 - ずっと訓練を続ければ無限大にいたる
 - ブッダは慈悲を無視の過去から続けてきた
 - 慈悲はさらなる慈悲を作る
 - 同様に...
 - 衆生を救うためには無限の知恵が必要

有神諭者

結論として

『パタンジャラ・ヨガシャーストラ』は、統一ヨガシステムを作ろうとし、その基盤になる世界観も構築しようとした意欲作。一見するとバラバラに見える哲学的要素も、著作当時の最新の思想動向を取り入れ、それなりに統合しようとした意図を見出すことができる。その意味で「ヨガ哲学」と呼ぶのにふさわしい。